

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 6 月 3 日

宮崎県知事 殿

提出者



住 所 宮崎県西都市鹿野田11365-1

氏 名 神楽酒造株式会社 西都工場
代表取締役社長 佐藤 基永

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0983-41-1234

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	神楽酒造株式会社 西都工場
事業場の所在地	宮崎県西都市鹿野田11365-1
計画期間	2024年4月1日～2025年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	E-1024 蒸留酒 ・ 混成酒製造業
② 事業の規模	30億4,445万円
③ 従業員数	44 人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	* 汚泥→堆肥化委託→肥料として利用 * 廃酸→濃縮・乾燥委託→配合飼料原料として利用 * 廃酸→活性汚泥処理槽の栄養源として委託処理 * 廃プラスチック類→回収委託→埋立 * ガラス・コンクリート・陶磁器くず→破碎委託→カレットとして再生利用 * 動植物性残渣→堆肥化委託→肥料として利用

（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙1 参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙2 参照		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙2 参照		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ダンボール・・・シール/金属ピン 除去のうえ 再生業者引取 ビニールひも・・・専用保管し再生利用業者引取
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	別紙3 参照		

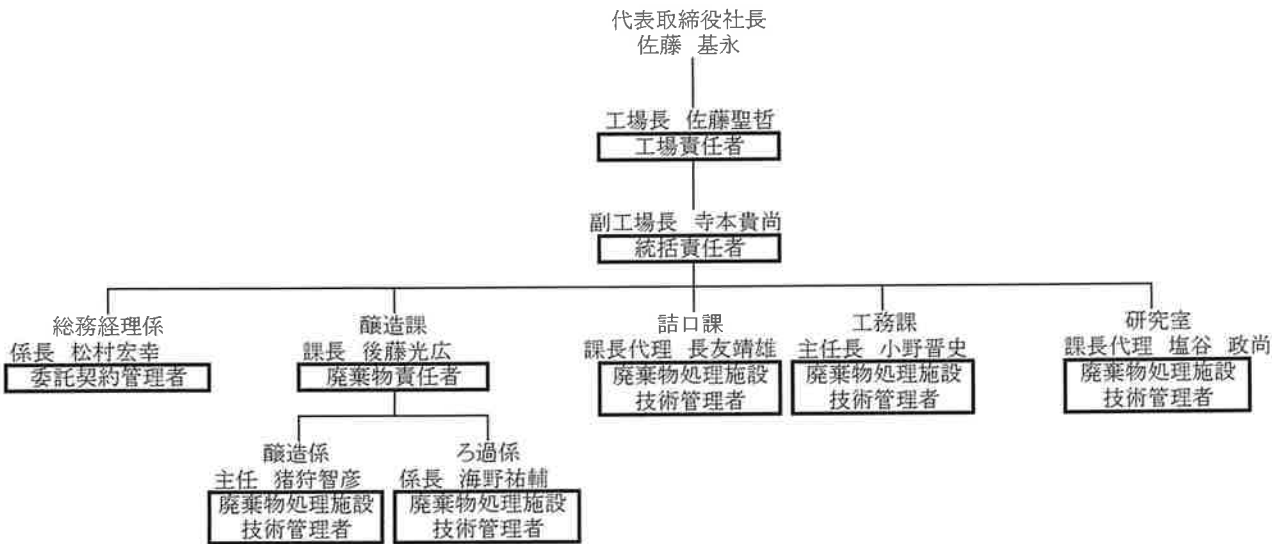
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙3 参照		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

◎管理体制図



◎教育

発生する廃棄物の種類、処理方法、留意事項について従業員に随時・教育・啓蒙を行う。
産業廃棄物保管場所の定期巡回
新規委託契約契約時の最終処分場視察

◎情報公開

廃棄物処理についての従業員の関心・意識を高める為、廃棄物の発生・分別・再生利用状況について情報の公開に努める。
また、必要に応じて周辺住民に対して施設の見学会を実施する。

別紙2

◎産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0400 廃酸	0600 廃プラスチック類	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	1000 動植物性残さ
	排出量	31.0t	5299t	10.0t	7t	44t
	(これまでに実施した取り組み) 汚泥→脱水方法の改善による重量減少 廃プラスチック→分別の徹底を行う 芋くずがR2年度から有価→廃棄の取り扱いで(動植物性残渣)の排出が急増 甘藷の「基腐病」での動植物性残渣の発生が増加					

①計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0400 廃酸	0600 廃プラスチック類	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	1000 動植物性残さ
	排出量	28t	5000t	9t	6t	40t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥→排水処理における「排泥」計画を調整し、汚泥量の抑制に努める もろみの酒化率を向上させ廃酸の発生割合を低減する為の発酵管理強化に努める 「基腐病」のない甘藷の仕入れ管理強化 廃酸の有価物への推進					

別紙3

◎産業廃棄物の委託に関する事項

①現状	【前年度(令和4年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0400 廃酸	0600 廃プラスチック 類	1300 ガラス・コンク リート・陶磁器く ず	1000 動植物性残さ
	全処理委託量	31.0t	5299t	10.0t	7t	44t
	優良認定業者への 処理委託量	—	—	—	—	—
	再生利用業者への 処理委託量	31.0t	5299t	—	7t	44t
	認定熱回収業者へ の処理委託量	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	—	—	—	—	—
	(これまで実施した取り組み) 委託契約に基づき、計画的に処理を委託し、委託先からの定期的な情報入手に努めている 又、廃プラスチック類の最終処分場(埋立)の許容量により、処分業者のみ別業者と委託契約した 処理費用削減を目的とした廃酸の処理委託先と新たに処分契約書を交わす					

①計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0400 廃酸	0600 廃プラスチック 類	1300 ガラス・コンク リート・陶磁器く ず	1000 動植物性残さ
	全処理委託量	28t	5000t	9t	6t	40t
	優良認定業者への 処理委託量	—	—	—	—	—
	再生利用業者への 処理委託量	28t	5000t	—	6t	40t
	認定熱回収業者へ の処理委託量	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行う業 者への処理委託量	—	—	—	—	—
	(今後実施する予定の取組) 有価物として取り扱いの「廃酸」の委託先への供給を拡大					